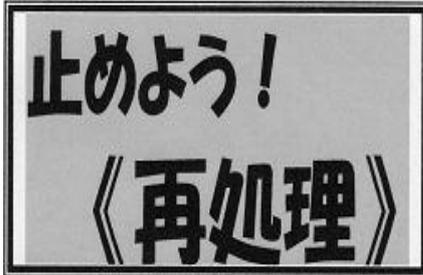


三陸の海を放射能から守る
岩手の会 (略称) 三陸の海・岩手の会
 郵便振替 02240-5-102650
 ホームページ《再処理 / 岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>
 《本紙の全バックナンバー掲載》



《天恵の海》
 2019(令和元)年
 8月28日
 第199号
 編集事務局 S.Oshida
 TEL・FAX 019-623-1636

2016年~2019年分も 早急な開示を!

2008年~2015年 がん登録データによる 甲状腺がん罹患率 全国・福島県 年次推移比較

0歳~19歳:男女計

20歳~39歳:男女計

40歳~59歳:男女計

(十万人当たり罹患数)



注1: 上図は全国の医療機関から報告される甲状腺がん罹患数のデータをもとに作成したグラフです。「福島県ではどの年齢も2014年~2015年にかけて上昇していることが気になります。グラフ2「20歳~39歳」には、スクリーニング検査世代の数値が2013~15年に入り数値を引き上げているかも知れず、反対にグラフ1「0歳~19歳」では、2012年生まれ以降のスクリーニング対象外世代が数値を若干引き下げているのかも知れません。



注2: 『国立がん研センター・がん対策情報センターデータ』と『福島県がん登録統計資料』のURLは、「天恵の海」第一九八号にあります。

《0歳~19歳》
 福島県罹患率、二〇一三年に全国の約一七倍となる
 グラフ1は前号でも示した「0歳~19歳」の罹患率ですが二〇一一年の事故から二〇一二年にかけて急上昇し、二〇一三年には全国の約一七倍になりました。これは、原発事故により放出された放射性ヨウ素が感受性の高い子ども世代へ影響したと考えるのか、それとも「甲状腺事故時一八歳以下へのスクリーニング検査」による効果とするのか、はたまたその両方によるものなのか、二〇一六年以降のデータの開示が待たれます。

《四〇~五九歳》
 二〇一四年にやはり全国と逆転
 グラフ3は、「四〇歳~五九歳」の罹患率ですが、低めに推移していた福島県が二〇一二年に急速に上昇して全国と並び、二〇一四年からは上回っています。

《二〇~三九歳》
 福島県罹患率、二〇一三年に国と逆転
 グラフ2は、「二〇歳~三九歳」の罹患率ですが、低めだった福島県の罹患率は、二〇一三年には上昇して全国と逆転をし、その後も上昇して差を広げています。
 ＊事故時一八歳以下のスクリーニング世代が二年後(二〇一三年)から順次二〇歳に達しデータの対象世代に「一年齢分」づつ入り込みます。二〇一五年では「三年齢分」です。

当会『天恵の海』前号訂正版では「二〇歳~三九歳」のデータをスクリーニング効果のない「三〇歳~四九歳」に差し替えました。しかし「二〇歳代」の分析こそむしろ重要です。そこであらためて「二〇歳」と区切りの「三世代」のがん登録データで福島県と全国と比較し報告します。

甲状腺がんを被ばくは 本当に関連がないのか? 福島県罹患率増加をどう見るか

原発事故の前後4年間の《罹患率平均》の比較

「20歳ごと世代」の罹患数（10万人当たり） 福島県と全国の比較

項目・年齢		0歳～19歳	20歳～39歳	40歳～59歳	60歳以上
福島県罹患率	事故前	0.46	5.19	10.15	15.92
	事故後	8.03	7.37	15.25	16.99
	比較	17.5倍	1.42倍	1.50倍	1.07倍
全国罹患率	事故前	0.32	5.43	13.27	17.30
	事故後	0.56	6.18	14.14	19.23
	比較	1.75倍	1.14倍	1.07倍	1.11倍

注； 事故前（2008年～2011年） 事故後（2012年～2015年）

*「公的がん登録データ」は暦年による集計です。（「福島県民健康調査小児甲状腺スクリーニング検査」は年度集計です。）

「六〇歳以上」を除き
福島県が全国より
増加率が高い

上の表は、福島県と全国の「甲状腺がんデータ」の事故前の四年間（二〇〇八～二〇一一年）と事故後の四年間（二〇一二～二〇一五年）の罹患率の平均を計算しその増減率を比較したものです。

全ての数値が増加へ

一目瞭然なのは、福島県も全国も、甲状腺がん罹患率が増えている事です。一般的にがんが増えているといいますが、稀少がんである「甲状腺がん」が事故後に増えていることに驚かされます。

むつと若者が増えている

福島県の〇歳～五九歳までの年齢層で、全国の罹患率を上回っており、特に「〇歳～一九歳」の増え方が大きい。一七・五倍は「スクリーニング効果」があるにせよ、他年齢層でも全国を上回っていることを考える時、「福島原発事故原因の放射性ヨウ素」によるものではないか、と強く疑います。

早急なデータの開示を

また全国の公式がん統計データは、二〇一六年以降について、未だ開示されていません。がんに対処する国民の認識を深めるために早急な開示を求めます。

甲甲状腺「評価部会報告」
本文修正など「承
福島県民健康調査検討委員会
「被ばくとの関連は認められない」とする報告案

七月二四日福島県民健康調査検討委員会は、「甲状腺評価部会報告」について審議し、「甲状腺がん」と被曝の関連は認められない」とする報告案を原文通り了承し公表しました。同時に「委員会見解」が出され「今回の報告は、七一人の甲状腺がんの見つかった第二回検査に限定しての結論である」としました。

「今後の評価の六視点」

さらに「今後の評価の視点」を確認しました。それは、より詳細な被曝線量による検討、がん登録情報や臨床報告を含めた分析と評価、事故当時の年齢と発見率との関連、一回目二回目を合わせたがん症例と被ばく線量との関連分析、がん発見率の高さや男女比についての検討、先行検査の四地点比較の検討の六点です。

*私達岩手の会は今回、「がん登録情報」による総合的な甲状腺がん罹患率の分析を記事としました。
「スクリーニング効果」の有無課題とするべきは、事

故時〇歳～一八歳（本格検査で事故翌年生れも含めた）の福島県民を対象とした、「小児甲状腺がん全員検査（スクリーニング）」の位置づけです。福島県民のみ、この年代のみをスクリーニング検査しても、比較すべき他地域や後継世代への《同じ手法による検査を欠いたままの統計》では正しい比較が出来ないのではないか？という素朴な疑問が出されました。当局の明確な説明を求めます。

被曝から子供達を守る運動を 岩手の退職高校 教職員学習会

岩手高 岩手高
教組退職 教組退職
組合員連 組合員連
絡会盛岡 絡会盛岡
支部は、七
月一六日

「原発事故後の福島の子供も達」について学習会を行いました。日本退職教職員協議会主催のスタディツアー（福島原発事故後の現地視察学習）に参加した同連絡会委員で、私達「岩手の会」会員でもある三人が発表し「帰還困難区域の空間線量や土壌汚染は未だ警戒すべき高レベルである」とことや「新校舎を巨費で新設したが児童生徒は十数人」などの現地の事例を報告しました。出席者からは全国の教職員組合こそ子どもを被ばくから守る運動に力を入れるべきだとの意見が出されました。

当会会報「ミニコミ」
「止めよう！再処理
天恵の海」
二〇〇号発行へ

二〇〇五年二月に会が発足し、六月に「天恵の海」を創刊しました。以来、次号で二〇〇号になります。六ヶ所再処理工場稼働で、三陸の海が「放射能公害に見舞われる」という警告を耳にして、岩手での運動を始め、この一四年間で現在まで三三四回の学習会（例会）を重ねました。その学習会の成果を綴ったのがこのミニコミです。

「天恵の海」

二〇〇号記念
「感想」コメントを
お寄せください。
◇二百字以内の短文とします。
◇今後発行する二〇〇号以降に随時掲載します。
匿名を希望の場合はその旨お書きください
◇送り先・「三陸の海・岩手の会」天恵の海編集局
〇ハガキならば
〒020 0881
盛岡市天神町1-9
〇ファックスならば
019 (623) 1636